



## 「自分から」の一步が大きな成長に

～ 1年間の温かな御協力に感謝して ～

築山の桜のつぼみがふくらみ初め、春の訪れを感じる季節となりました。昨日は卒業式、そして本日、無事に終了式を迎えますことを保護者の皆様、地域の皆様とともに喜び合いたいと思います。振り返れば、1年前、新しい学年になり、緊張した面持ちで登校して出会った子供たち、この1年間学校生活の中で一人一人が「自分から」を合言葉にチャレンジし続けていました。自分から一步踏み出して取り組むことで自分の力が少しずつ伸びていきました。



6年生を送る会

例えば、挨拶です。挨拶には「おはようございます。こんにちは。さようなら・・・」など様々な挨拶がありますが、この1年で一番よく聞くことができた挨拶は、廊下ですれ違ったときの挨拶です。高学年中心に、どの学年も「こんにちは」の声を自分からできる子が増えています。学校に来校する方にもよく挨拶しているため、褒められることが多いです。

また、2月半ばの参観会では、どの学年も学習の発表を行いました。低学年は生活科、3年生以上は総合的な学習で学んだことをグループや個人で発表していました。参観会が終わった後、ある子が「とても緊張した。終わってよかった。」と言ったのを聞きました。その時に「緊張したんだね。でも、やってよかったかな。」と尋ねたところ、目を輝かせて「よかった。」と言ってくれました。やはり、自分で取り組んだことをみんなの前で、発表する経験は、本人にとっても大きな力を与えてくれます。そして、終えた後には、満足感を与え、今後の活力となっていくことを確認することができました。

さらに2月末には、6年生を送る会が行われました。5年生は2学期から企画・準備をしました。当日は6年生のために一生懸命運営していました。5年生はその過程で来年度最高学年になるための力を付けていました。また、どの学年も6年生のために感謝の気持ちをこめて出し物を発表しました。「ゲーム、クイズ、ダンス、プレゼント」など、どの学年も心をこめた発表をすると拍手や歓喜が自然と起こり、温かい雰囲気でした。6年生も感謝の気持ちを1年生から5年生のために言葉と合唱で表していました。そのような全校の姿を見ていると1年間の学校生活で「にこにこ（心）、はきはき（学び）、ぐんぐん（体）」が発達段階に応じて成長している様子がよく分かりました。

子供たちの成長はこの1年で終わりではありません。今年蓄えた力を進級・進学という新しいステージにのぼり、新しい学びをし続けるのです。私たち教職員一同、これからも子供たちが安心して学び続け、さらに力が伸びていくように自分から一步踏み出していけるような学校でありつづけたいと考えています。

1年間、本校の教育活動に多大なる御理解と御協力をいただき、心より感謝申し上げます。皆様の温かい見守りがあったからこそ子供たちは安心して自分らしさを発揮することができました。春休み、御家庭でもぜひ、お子さんの頑張りを具体的に褒めてあげてください。その一言が、次の一步を踏み出すエネルギーになります。

新しい年度が、子供たちにとってさらに飛躍の年となることを願っております。

（校長 袴田 洋史）